

家庭画報

6

June 2020

KATEGAKHO



人生を楽しむタイムスタイルの拠点

「豪邸」 「拝見」

- ◆「感動と驚きの仕掛け」を備えた日本全国の住まい
- ◆わが家を豪邸に変えるハイエンド設備19選

連載 松岡修造「東京2020」延期へのメッセージ

今こそ世界が一つになるとき

名産地で味わう&家庭で作る

究極のはまぐり

新しいアワードアの形

注目のグラフィピダ

いつまでも素敵でいてほしい
「父の日」の贈り物
歴史とともにある美しい日常
ベルギーの城に暮らす
初夏のお洒落を快適に、美しく
心ときめく涼支度
溢れ出す“オーラ”のある人になる
今こそ、輝く素肌にな

表紙の花が
毎月ご自宅に届きます
『家庭画報』の
花宅配便

歴史とともにある美しい日常

ベルギーの 城い暮らし

貴族の住まいとして現役で使用されている城から、公共施設として市民に愛される城まで。九州とほぼ同じ広さの国土に大小合わせて約3000もの城が現存するというベルギーでは、歴史を宿し、贅が尽された美しい城が人々の日常に溶け込んでいます。さまざまなかたちで親しまれている5つの城を訪ねました。

*掲載した開園時期・時間、イベント開催期間などの情報は、変更の可能性があります。ウエブサイト等でご確認下さい。
撮影 / 小野祐次 構成・文 / 安藤菜穂子 協力 / ヘルギー・ツアーズ 又政府観光局 <https://www.visitflanders.com/ja/>

ヘルクネス城の城主、ギラソン・デエ
ルセル伯爵とステファニー伯爵夫
人。伯爵夫人自ら、庭園の花をふ
んだんに飾ったホワイエにて。



スタニス城

美しい花々とともに、伯爵家族が住まう城



ブリュッセルから東へ車で約1時間。広大な庭園と公園を有するヘックス城には、現在もデユルセル伯爵とその家族が暮らしています。

この城は、中世から19世紀まで、ベルギー、オランダ、ドイツの一部にまたがって存在したリンブルグ公

国の統治者、リエージュ司教君主のフランク・ロシヤル・ド・ヴェル

グリュック伯爵が夏の離宮として建設したものです。ロココ・スタイルのエ

レガントな城です。ヴェルグリュック司教君主の死後はアンサンブル

家に継承され、その後、ミシェル・デユルセル伯爵が相続しました。バ

ラをこよなく愛した妻のナンタ・デユルセル伯爵夫人は野バラとオール

ドロイズの見事なコレクションを築き、美しい庭園を育て上げました。

その息子で現在の城主であるギラシ・デユルセル伯爵の妻、ステファ

ニ伯爵夫人も、花を愛する人。義母が育てた庭園に咲き誇る花々を使

を彩り、鉢植え一つまで、自ら管理しているといします。



上右・1770年の築城当時の装飾を保つためにモンテチンシシ
ながら、伯爵夫妻と一男二女の5人家族が暮らす。初代城主
のサエルフリエック司教君主も花と自然の愛好家で、壁や窓
枠など細かい装飾にも花のモチーフが多用されている。上左・
タイニンソグルームの装花をアレンジするステファニー伯爵夫
人。下右・ヘックヌ城外観。1970年から先代のミシエル・デ
ユルセル伯爵の所有となった。下左・鮮やかなブルーの階段
室は、ロココ・スタイルのこの城の見どころの一つ。





へックス城

バラが美しく咲く時期
城門が開かれ、
庭園に人が溢れる

CHISLONTE
DE L'ILLONDE
MISAPPA

毎年6月と9月の第2週末に行われ
ている「ガーデン・フェスティバル」
庭園が開かれ、苗木やガーデン
グッズなどを販売する出店も。

庭園が大いに賑わう ガーデニング・フェア

フォード・ガーデン・イングリッシュ・ガーデン、そして伯爵家族のシユ・ガーデン、キッチン・ガーデン、広大な庭園をもつヘックス城。この庭園に愛情を注いだナンタ・デユルセル伯爵夫人は、咲き誇る花々を多くの人に楽しんでもらいたいと、ふだんは非公開の庭園を開放する「ガーデン・フェア」を企画しました。その遺志を継いだギラン・デユルセル伯爵夫妻の尽力により、現在ではヨーロッパ中の園芸愛好家が詰めかける、お祭りのような賑やかなイベントに。3人の子どもたちも友人を連れて帰省してお手伝い。一家総出でもり立っています。

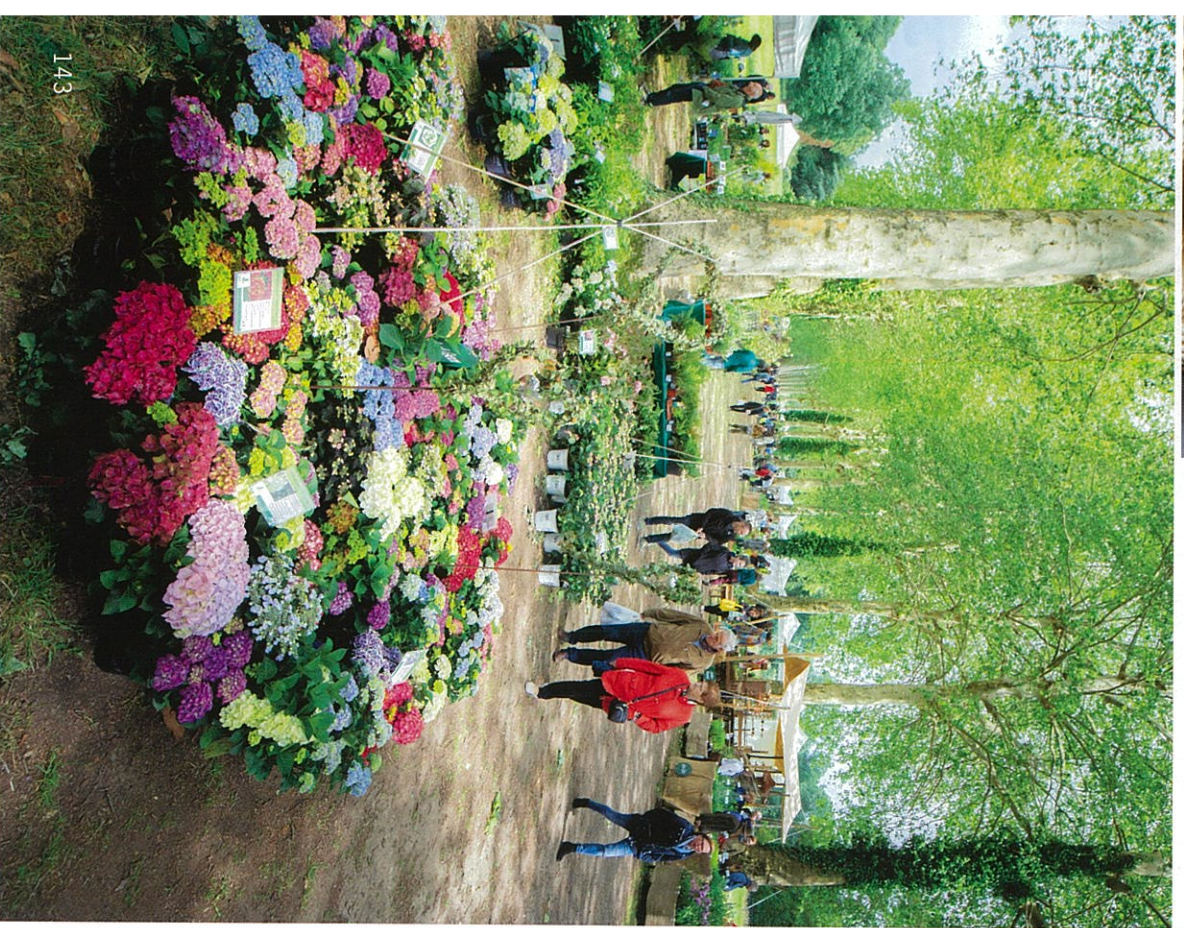




右ページ・敷地のいたるところに70あまりの出店が並ぶ。やはりバラの苗木を扱う店が人気。右・オーカニック栽培のキッチン・ガーデン。収穫された野菜はデュルセル伯爵家の食卓に上り、使われなかったものは地域のショップで販売される。野菜と一緒に切り花用の花も育てられている。上・来場者は庭園で自由にごす。奥の建物は元厩舎で、現在は倉庫などとして使用されている。左・庭園の花々から集めた3種のハチミツとハニーロインの販売も。右下・ナンタ・デュルセル伯爵夫人。人は約1200種のバラを育てたという。



ヘツクス城
 Hekslaan, B-3870 Heks-Heers
 ☎+32 12 74 73 41
 ガーデン・フェスティバル
 開催期間: 2020年6月12日~14日、9月12日~13日
 開場時間: 10時~18時(入場は17時まで)
 入場料: 11ユーロ(インターネットによる前売りは9.5ユーロ)
<https://www.hex.be/>



右・キッチン・ガーデンの野菜を使ったひと皿。野菜ごとに異なる、洗練された味つけ。上・デュルセル伯爵家のフオアール・デインターの料理も担当するシェフのクロード・ポーリック氏。左・城の正門に通じるフナの大木の並木道にもさまざまな店が並ぶ。





“レイエ川の真珠”と謳われる
美しい居城に暮らす

オールドマン 城



アンリ・トキント・デ・ロ
ーデンベーク伯爵と、コラ
リー伯爵夫人。フレミング
ユ・スペイナルネサンス様
式の円形のサロンにて。



アイヌク城
伯爵夫妻の尽力により
かつての華やかさを保つ城

湖に囲まれた城の正面。左右端の玉ねぎ形の屋根をもつ円形の塔がこの城の特徴。奥にも同じ形の塔が並び、正方形に配置されている。左ページ上・コラリー伯爵夫人が結婚式前夜に宿泊したベッポルーム。隣のコネクティングルームには、妹さんが泊まったという。下・ダイニングルーム。「イソテリアに中国風のテイクストを加えました」と、改装を一手に担ったコラリー伯爵夫人。



城門を抜けて進むと、おとぎ話のような、という形容がぴったりの光景が眼前に現れます。

1595年に建てられたこの城は、ルネサンス期に登場したフレスコ画建築様式で、玉ねぎ形の丸い塔が特徴。1864年、上院議長と国務大臣を務めたアンリ・トキント・デ・ロゼンベック上院議員が購入後、代々修復を行いながら住み続けられ、現在は6代目で同名のアンリ・トキント・デ・ロゼンベック伯爵とクラリ伯爵夫人、3人の息子が暮らしています。結婚後、クラリ伯爵夫人がインテリアを全面的に修復し、一部の完全なフラインバートゾーンを除いて、一般見学が可能に。国の要人や一族が集うパーティなどに今も

実際に使用されている、12室あるレブションルームをはじめ、チャペルやサロン、ゲストルームなども見学できます。修復にあたり「歴史と現代生活、芸術と快適さを調和させたい」うえで、家族のフラインバートな塔を加えた「トクラリ伯爵夫人。まさに21世紀における『城の暮らし』を体現する一家です。

オーイドンク城

Ooidonkdreef
9, 9800 Deinze
☎+32 9 282 26 38

城内見学

4月1日～9月15日までの日曜・祝日のみ。

開場時間:14時～17時30分

入場料:10€

庭園見学

開園時間:9時30分～18時

(火曜のみ13時～)

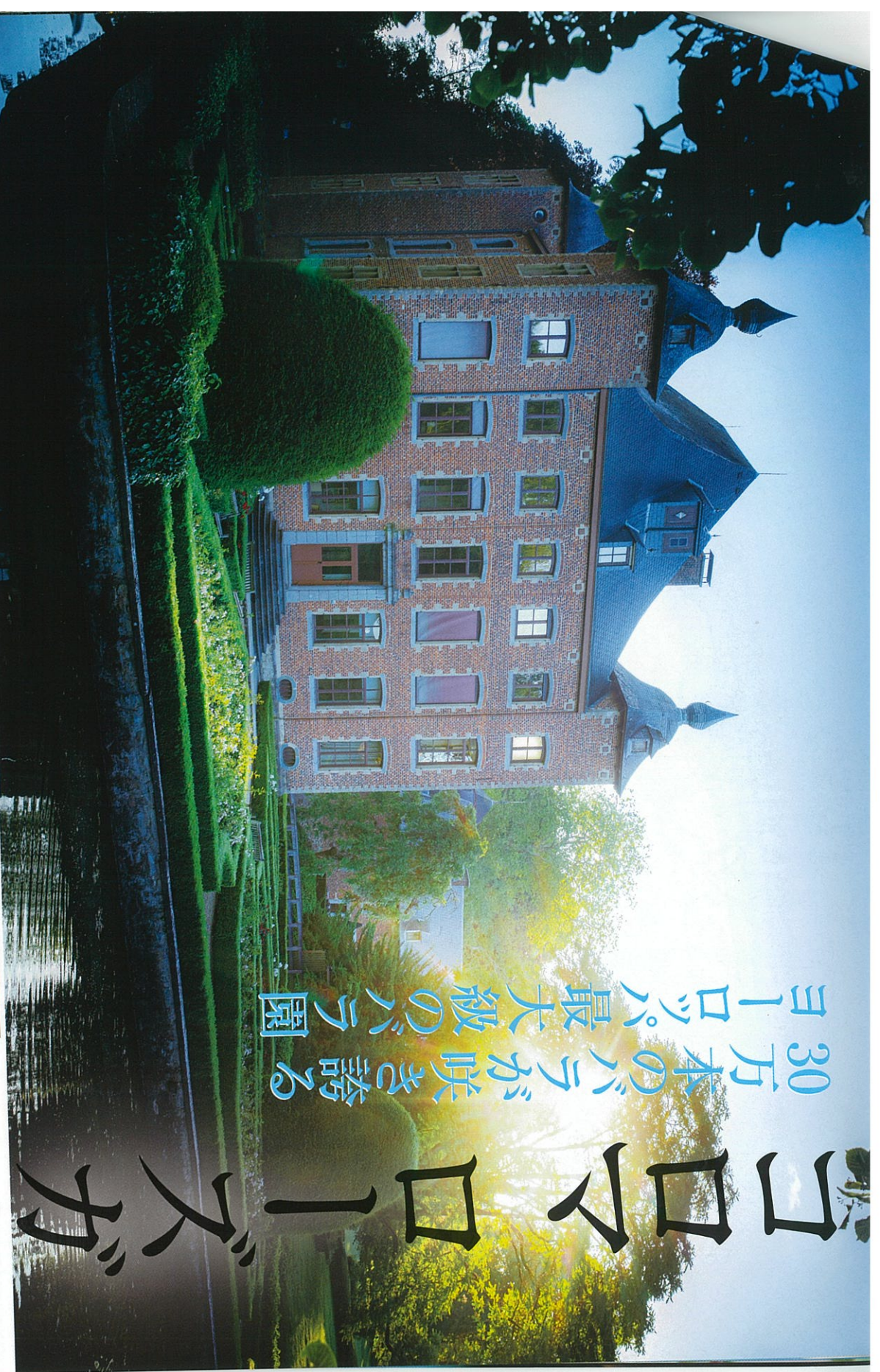
11月～2月は10時～17時

月曜定休 入場料:2€

<http://www.ooidonk.be>



30万本のバラが咲き誇る
ヨーロッパ最大級のバラ園



ヨーロッパガーデン



1515年に築城されたコロナ城を

1984年にシント・ピータース・
レウの自治体が購入、修復し、そ
の後、フランダース政府林野庁の管
理のもと、2000年にローズガー
デンとしてオープン。現在は300

0種を超えるバラが集められ、特に
ベルギーのバラ育苗家ルイ・レンズ
が作出した品種が数多く育てられて
います。広大な庭園は、フランドル

地方のバラ、赤と白のバラ、オール
ドロイズ、インターナショナルなど
のテーマで区分けされ、それぞれ異
なる見せ方で、楽しく散策すること
ができます。ローズガーデンの開設

と充実に尽力したのが、政府林野庁
に40年あまり勤務し、現在もアドバ
イザーとして活躍するマルセル・フ
オッセン氏（左ページ）。近隣の城
や公園も監修しています。その功績

を称え、園内には、彼の名前を冠し
たバラのトンネルがあります。

上・1515年に築かれ、1984年に地元自治体が購入し修
復したコロナ城。建物はバラの資料館として開放され
ている。左ページ上・満開の「ボンボン グランパル
フェ」の前にベンチが置かれた人気のスポットで記念
撮影する来訪者たち。下段右から、ルイ・レンズ「マ
リア・テレサ」、グレゴリ「アマリコットシルタ」、ル
イ・レンズ「シユューベルト」、バトリック・ディクソ
ン「メメント」、ピバ「ピーター・ポール・ルーベンス」、
ルイ・レンズ「ヴェー」、タンタウ「アシエラム」も
1994年に野菜畑にバラが植えられ始め、現在では
3000種以上、30万本を超えるバラが育てられている。

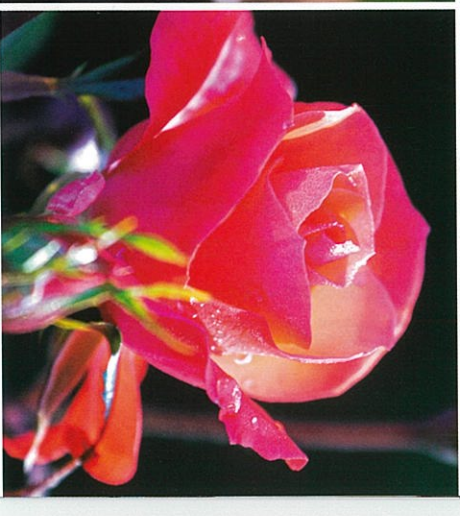
コロナローズガーデン

1 Depawstraat 25-1600

Sint-Pieters-Leeuw

☎ +32 2 454 86 30

開場時間: 日の出から日没まで 月曜定休 入場無料



右・1240年に建てられたガースベーク城。“悲劇のエドモント伯”をはじめ、数多くの貴族に所有された。数周回にはフランス地方の原風景が残り、16世紀にアリエーデルが描いた《殺物の収穫》を彷彿させる。中・ペルセル・フォッセン氏。『心配無用のバラ101本』という自著を片手に。左・枝を満卷きのように平らに成形したりんこの木。



どの利用されています。城の建物はアトイベントはの工夫を見とることができまのように育てるなど、中世ならで形し、場所を節約して収穫しやすいキヤンデインのように枝を薄く成長たえはりんこなどの果樹を棒付業博物館のような庭があります。中世の農業を再現した、いわば農氏の監修による庭園が見どころ。るカースベーク城も、フォッセンコロンローズガーデンに隣接す

中世の農業を再現した庭園が見どころ ガースベーク城



ウイツテル城

市民の英断で
修復され
活用され続ける古城

15世紀に建てられたネオゴシック様式の古城。城内は時間をかけて調査・修復され、使用中の現在も修復が続けられている。庭園も一般公開され、ジョギングする人の姿も。鴨や豚の飼育場もあり、市民の暮らしに溶け込んでいる。

ウイツテル城

Konigin Astridplein 17, 9150 Bazel

☎+32 3 740 04 00

開場時間: 13時～17時 (火曜・水曜・木曜)

<https://www.toerismnewaasland.be/en/>



第二次世界大戦後、住む人もなく荒廃していたというウイツテル城。隣接する3つの市が協議し、最後の所有者から税金で敷地ごと買い取って、みんなのお城として活用することを決めたといいます。

城の門前にあるのが、ミシュラン1つ星のレストラン「ホフケ・ファン・バーゼル」。城の雰囲気そのままのクラシックかつモダンな店内で、自家農園で採れた野菜をふんだんに使った美しい料理が楽しめます。

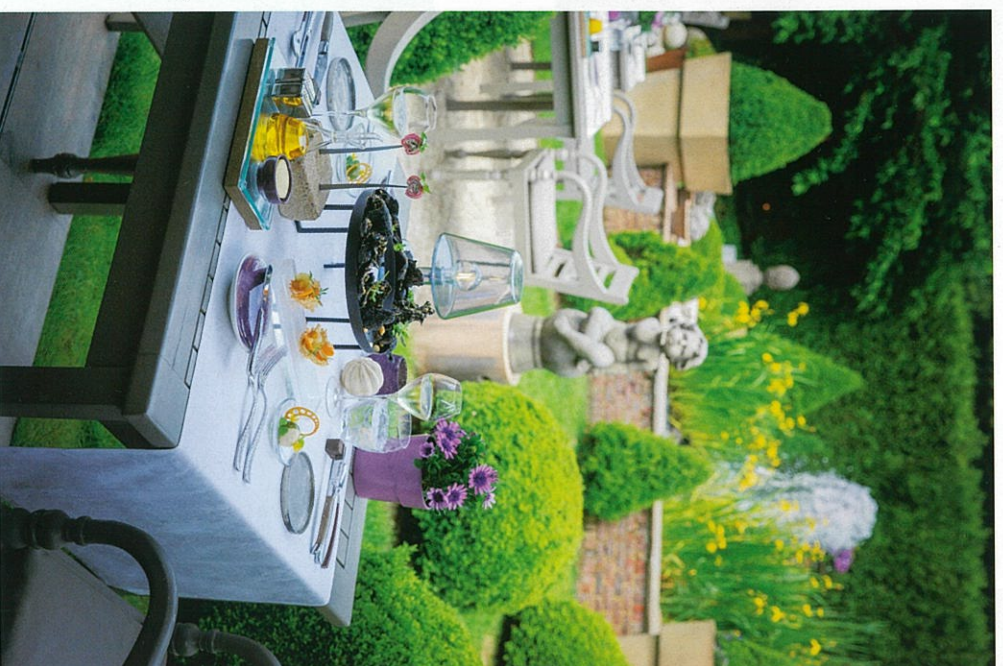


右・美しい中庭に面したテラスの上には、4種のアミューズが。左上・いちごのデザート。左下・前菜の豆のムース。どの料理にも自家農園で採れた野菜や果物、エディブルフラワーが使われている。農園でのハーベスキューラUNCHも。シェアはクリス・デユ・ロイ氏。

ホフケ・ファン・バーゼル

Konigin Astridplein 11-13, 9150 Bazel

☎+32 3 744 11 40 営業時間: ランチ12時～14時、ディナー19時～21時 (水曜～日曜 土曜はディナーのみ) <https://hofkevanbazel.be>



城の門前にある自然派レストラン

ホフケ・ファン・バーゼル